

シンポジウム

実践：CALLによる英語教育

共催 文京学院大学 外国語学部
文京語学教育研究センター
千葉大学 外国語センター
文部科学省科学研究費補助金による特定領域研究
(領域番号 120:領域代表 坂元昂)計画研究力班
「外国語 CALL 教材の高度化の研究」
後援 外国語教育メディア学会 関東支部

平成 14 年 8 月 30 日に発表された「平成 15 年度概算要求主要事項 (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/index.htm)」よれば、文部科学省は英語教育の改善に、「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm)」として 24 億 8,900 万円を要求しているそうです。前年度比 21 億 6,300 万円増も異例のことでしょうが、1 教科の改善にこれだけの予算を組むのも異例と言えるでしょう。

予算額だけでなく、上記構想の内容により、文部科学省の本気の度合いが見えてくるように思えます。発表された戦略構想には次のようなものが含まれているからです：

- 1) 平成 15 年度から公立中学・高校「全英語教員 6 万人に対する集中的な研修」を行う。
- 2) 中学生、高校生、大学生、および英語教員の「目標とすべき英語力レベルを具体的に示した」、「TOEIC などの点数を採用条件や評価項目に使う」よう教育委員会に求める、英語教員は TOEIC 730 点程度が目標。
- 3) 大学入試センター試験での「リスニングテストの導入」(平成 18 年度実施を目標)さらに各大学では外部試験結果の入試での活用促進。

しかし英語力の改善は、お金や構想だけでは実現できません。「理論」も「施設」も「教材」も必要です。我々はこのような社会の要請を予見し、平成 10 年度から「メディア教育開発センター」の事業として、また、平成 11 年度からは科学研究費の補助金を得て、英語教育、とくにコミュニケーション能力養成のための CALL (Computer-Assisted Language Learning) 教材の開発、高度化に努めて参りました。もちろん、それに先駆けて「三ラウンド・システム」と呼ばれる指導理論、指導法も開発いたしております。

その結果、通常の大学の授業における CALL での自習で、年間(半期または通期)に TOEIC 60~70 の上昇がコンスタントに得られることが繰り返し観測されております。すべての条件を理想的に近いものに揃えられる実験室環境では 20 時間に 100 点上昇というケースも、4

組延べ 21 名の被験者で、繰り返し観測されておりますし、三ラウンド・システムで TOEIC 800 点以上を取得してさらに学習を希望した大学生 10 名に CALL 教材を 6 ヶ月間貸与して自由に自習させたケースでは、そのうち 7 名が平均で 72 点上昇し、916 点に到達しています。また、開発された CALL 教材での自主学習で到達した最高得点は、TOEFL - PBT で 647, TOEIC では 930 でした。

実験室環境での成果はともかく、通常の CALL 授業で、あまり勉強をしない学生を含む全員の平均で、TOEIC に 60～70 の上昇が得られるということ、さらにやる気のある学生ならば 900 を越える成績を在学中に得られる学習法は、まさに大学（院）を含めた戦略構想の期待に応え得るものであると我々は考えます。そこで、このたび、そのような指導を大学で 2 年以上続けている先生方にシンポジウムという形式で実践報告および討論をしていただく機会を持つことにいたしました。参加は無料ですので多数の先生方のご参加を期待いたしております。

なお、高等学校の先生方には、2006 年からセンター試験や大学入試に導入されるリスニングテスト対策として生徒への効果的な指導のための情報収集にも本シンポジウムをご利用いただけると思いますが、公立学校全英語教員の能力別研修を前にご自身のコミュニケーション能力向上を目指される方のためにもここでの情報は十分参考にしていただきたいと思います。先着 100 名の高校の先生には、指導または学習用の CALL 教材（CD-ROM）を 1 枚贈呈いたします。

シンポジウムでは、平成 11 年度～14 年度の科研でどのような研究をしてきたかの報告もさせていただきますが、各発表者の方には以下のような点を中心に報告をしていただきます。その他ご要望等がございましたら、ホームページにある「参加申込フォーム」のコメント欄にご記入ください。

- ◇ 各大学での CALL による指導の目的
- ◇ 使用している施設、教材
- ◇ CALL による指導の方法
- ◇ 指導効果
- ◇ 学生の反応
- ◇ CALL による指導の問題点
- ◇ その他

発表の時点でのご質問もお受けしますが、シンポジウム終了後、学内で懇親会をもちますので（無料）ご質問のある方はご自由に発表者の方々とお話をいただけます。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

文京学院大学教授 文京語学教育研究センター所長
特定領域研究（120）計画研究力班研究代表者 竹蓋幸生